

佐谷田の誕生と平戸の大ぼとけ

佐谷田公民館長 石川治雄

佐谷田は、荒川の旧流路である元荒川の左岸流域に存在した佐谷田村と明治 22 年の町政施行にて北埼玉郡から編入の平戸・戸出村の三村が合併し佐谷田村として誕生した。

古くは隣接する集落であったが、国郡郷制度の定めでは統治下が異なり、佐谷田村は郡家郷に、平戸・戸出村は埼玉郷に属し、郷治されていた。

王政維新と廃藩置県前後は忍藩に属し忍領であったが、後に忍県、埼玉県、大里郡、佐谷田村となり昭和 16 年に熊谷市へ合併し、旧村の地名は大字として地名を現在残す。

三村の合併のため信仰する神社、仏閣も多く、佐谷田八幡社、平戸住吉社（他国）、戸出神明社として地域に鎮座しているが、今から百年前大正 2 年に三社を合祀し、佐谷田村の総鎮守として地域の人々をご守護してきたが、後に平戸神社が続いて戸出神社が元の社殿に戻り、今は地域毎に祭事を行っている。他に雷神様を祭った大電神社が鎮座する。

寺院は、佐谷田のお不動様として信仰の厚い永福寺を始めとして五つの寺院が存在する。他に山岳仏教のお堂も伝えられているが現存していない。

合併三村の面積は、佐谷田 333 町、平戸 45 町、戸出 50 町であったが、現在は市街地に隣接するため、平戸、戸出の面積は銀座地区などへ編入され、かなり減少している。

平戸大ぼとけ源宗寺は、平戸村地名の起源とも言われた。

慶長年間の記録に、九州は肥前の国松浦郡平戸郷より藤井稚楽之助なる郷土が当初に住し、村の北東丑寅の地に境内を定め住吉大明神を勧請し氏神として祀ったのが始まりとある。

藤井稚楽之助は、藤井山源宗寺を開基した後、小規模ながら大仏殿を模した重層の千日堂を創建し、四米もある薬師・観音の二尊像を安置した。仏像の胎内から出た秘伝書に基づく馬の病気や疫病の妙薬が好評で、近隣の人々の信仰を得ていた。

一説には、藤井稚楽之助は、肥前松前藩の優れた西洋土木工学の武将で、荒川改修工事のため技術を認められ、現在の平戸の地に渡来したとされている。



(熊谷市公連だより 第 16 号 平成 25 年より)